

会 報 教育者会議

平成23年3月18日

第20号

北海道

発行：北海道北方領土教育者会議

事務局：北方領土復帰期成同盟内 （電話）011-205-6500 （FAX）011-205-6501

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5 明治安田生命札幌北1条東ビル7階

『北方領土教育者会議全国会議』に参加して

北海道北方領土教育者会議代表 齋 藤 正 六

平成23年2月26日（土）独立行政法人北方領土問題対策協会主催による「第6回北方領土問題教育者会議全国会議」が東京で開催され、全国の北方領土教育者会議の代表者やオブザーバー等総勢77名が集まった。会議では、第1部として、内閣府北方対策本部、外務省欧州局ロシア課、文部科学省初等中等教育局教育課程課によるそれぞれの最新情報に基づいた北方領土問題に関する考え方や取り組み等の説明があり大変参考になった。そして、第2部として、全国各地で創意工夫を凝らしながら北方領土教育に取り組んでいる様子を交流し合い、原点の地としての北海道が北方領土教育を実践する上で有利な面が多々あり、「地の利を生かした北方領土教育」の更なる充実と授業・教材・教具等の実践資料の発信に努めなければならないことを強く感じさせられた。

ここでは、第1部の説明内容の概略について報告したい。

内閣府によると、元島民をはじめ北方領土返還要求運動の主要な担い手の高齢化（元島民の平均年齢が77.6歳（平成23年1月現在）が進み、国民一人一人の関心を高め、返還要求運動のすそ野の拡大を図る必要がある。そして、北方領土問題への認知度・理解度や返還要求運動への参加意欲が相対的に若い世代ほど低い傾向があり、重要な取り組みとして学校教育の充実が挙げられるということであった。「北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律」でも教育・学習の振興について明記され、国の取り組みの方向性を定めた「北方領土問題等の解決促進を図るための基本方針」にも学校教育・社会教育を通じた教育・学習の充実を図る旨が明記されている。

次年度の北方領土教育の充実に向けた内閣府の取り組みとして、①北方領土教育を取り入れた修学旅行等の誘致活動の実施、②「原点の声」派遣事業、③政府広報を通じた若者向けコンテンツの配信、④文部科学省への働きかけを予定。また、若い世代向けのその他の取り組みとして、①大学生等を対象としたワークショップ、②子ども霞ヶ関見学デー、③メッセージフリップ企画の実施等の計画もあるということだった。（裏に続く）

外務省からは、ロシアの北方領土に関わる最新の考え方や政策、取り組み現状等について説明があった。また、日本の対露外交の基本方針（①アジア太平洋地域のパートナーとしてふさわしい日露関係の構築、②領土問題解決のための協議と経済協力のための協議を進めつつ、最大の懸案である北方領土問題を最終的に解決して平和条約を締結すべく、精力的に取り組む）を政治分野、経済分野、その他の三分野から推進し、最終的には「北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結する」という説明であった。



文部科学省からは、小学校、中学校および高等学校の新学習指導要領における北方領土の取扱いについての説明があった。（内容は省略）

全国会議では22年度中に新たに4県で教育者会議が設立され、全国で37都道府県に増えたことが報告されています。各県の活動はその状況に差異はありますが独自の事業

を実施している地区が増えてきたと感じました。新学習指導要領の実施に向けてその実践研究が避けて通れない状況になっているのだと思います。

北方領土問題に進展は見られませんが、一層教育現場での具体的実践が求められる環境になってきたと感じられます。

今回はいくつかの資料を同封いたしました。北海道の現場実践を拡充していかなければと思います。会員の皆さんの力に大いに期待しています。



◎ 今年も教員の人事異動時期が来ました。会員の皆さんで**異動・住所変更された方は必ず同封のFAX用紙で事務局にご一報**ください。忘れずにお願いします。ご勇退された方にも新住所をお知らせくだされば送ります。

- 北方領土教育拡充のため会員拡大を進めなければなりません。会費も義務ありません。会員の皆さん、周りに声をかけられる方がおりましたら、是非お願いいたします。小中高校の継続した北方領土学習を拡充するために高校の先生にも会員登録を薦めています。小中高の実践交流・情報交流を進めていきたいと考えています。
- 高校で熱心に取り組んでいる学校があり、高校生弁論大会応募校も増えています。さらに雪祭り期間に実施している署名活動に自主的に参加をしてくれる高校生も増えています。若い高校生の参加は元島民の皆様には元気の基にもなるようで、頼もしい限りです。
- 東日本大震災の惨状を見聞きしながら、“普通に生活する”ことがいかに貴重なことかを痛切に感じています。子どもたちに伝えるべきことは多くありますが一人ひとりがやれることからやっていければと思います。皆さんのご活躍とともにご自愛を願っています。